

SWの皆様へ

赤城高原ホスピタル

PSW 藤川大介

今、このAAのホームページをご覧になっている皆さまは、アルコールにまつわる何かしらの問題を抱えた人に直面し悩みながらここに行きついたのではないかと想像しています。どのようなことが皆様にお伝えできるか、悩みあぐねていますが、ここは直感で私自身の体験を辿っていくのが良いのではないかと考えました。自分がみてきたアルコール問題やAAとの関りを中心に、どのようにAAを知っていただくのが良いかお伝えできたらいいな、と思っています。

それぞれが様々なフィールドで活躍なさっていると思いますが、私の場合、ある慈善事業色の濃い精神科もある一般医療機関(一言でいうと総合病院)でソーシャルワーカーとして仕事をしたことが、アルコール問題やAAと関わりをもつきっかけになっています。そこで、様々な人と出会いました。経済的な困窮にある中でも飲み続ける人。飲酒しては救急搬送を繰り返す人。肝硬変や膵炎、糖尿病、食道静脈瘤などの疾患を抱え治療を受けている人も掘り下げれば飲酒問題を抱えていました。アルコール夫からDVを受け多発外傷で救急科に来た人。アルコール酩酊でリストカットしている人が外科に運ばれることもありまし、小児科で摂食障害の症状を表している子どもの父親はアルコール問題を抱えていたというケースもありました。総合診療科では表面的に問題になっているものの裏側にアルコール問題を持っている人はとても多いように思います。それは裏側にあるアルコール問題が解決しないと表面的な問題は解決しないことを指しているのではないかと思ひ始め、どのようにしてその裏側のアルコール問題に介入するかを考えるようになりました。

そこで知ったのがAAの存在でした。ただ、私はAAの良さをその当時は知ることができませんでした。私の頭にあったのはSW養成の学部教育で行われた平面的なAAの理解だけでした。“いろいろな気持ちをみんなで話す場所が必要なのではないですか”という一辺倒な説明を入院患者さんにしていました。けれど、“話しても何にもならない”“意味ない”などと言われると、もうそれ以上AAについて情報提供をする事ができませんでした。そのため、もう少し立体的にAAのことが話せる必要があるのではないかと考えていました。AAに行ってみれば手っ取り早いのに、それがなかなかできない。“他にやらなければならない日常の課題があるから...”と私自身がAAに関わる事を後回しにしていました。「行ってみたい」と「行きたくない」の相反する気持ちにゆれていたのかも知れません。

私自身のこういう体験を綴ってみると、AAに参加するというのは意外と大変なことなのかな、と身にします。危機迫る状況、タイミングにならないと行けないのかもしれませんが。その後、私は依存症臨床の職を得、AAを知らずに仕事ができるか、という危機状況を迎えたことをきっかけにしてようやくAAに足を運ぶようになりました。

私がAAにお世話になるようになって、すぐに思い浮かぶのは、AAのオープンスピーカーズミーティング(どなたでも参加できる回復者が自身の体験談を話すイベント)でのある回復者の発言です。その回復者の発言はこういうものでした。「家族よりも職場のひとよりも何より私は回復した人と話をするのが好きです」と。私はこの発言を聞いて、ストーンと心に落ちる何かを感じました。私も同じような理由でAAが好きなんだろうと思ったのです。

アルコール問題からの回復者は人当たりがやわらかく、それでいて何があっても動じないような冷静さをもっている。"I'm OK. You are OK"が骨に染みているような存在に感じられます。なぜそのような存在に感じられるのか。それは、彼ら彼女らがとても辛い状況の中でアルコールを使用しながら何とか生きながらえてきた人たちだからではないでしょうか。さらに、その自分の生命線であったアルコールを断ってそれでもなお生き続けている姿が私の心を動かすのかもしれませんが。彼ら彼女らの語りを聴いていると、やがてそれはアルコール問題を越えて、一人の人の生き方について再構築しなおすという取り組みである事がわかってきます。それを日々重ねている彼ら彼女らを尊敬しています。また、それは羨望でもあります。

私は、当初、「SWの皆さん向けAAの紹介」の依頼を引き受けた時、AAの紹介をどのようにしたらよいか、どのような工夫をしたら皆さんにそのエッセンスが伝えられるかということに悩みました。悩んだ末に皆さんにお伝えしたいと思ったのはあまりにシンプルなものでした。それは、皆さんがAAに通うことです。まずSWの皆さんにAAへ足を運んでもらいたいのです。定期で行われているミーティングでも、一時のイベントとして行われるオープン・スピーカーズ・ミーティングでもいいと思います。そして、AAの回復者や回復途上の人たちの物語を一人でも多くお聴きになることをお勧めします。回復者に会う事、困難のなかからつむぎだされた回復の物語を聴く事から様々なことが得られると思います。私はAAと出会って回復するという希望が持てるようになりました。それは、私の支援のあり方に影響していると思います。このように、今担当しているクライアント支援に生きることはもちろんですが、それだけでなく、AAで語られる物語は、私たちSW自身の人間的な回復に多くの示唆を与えてくれるものであるとも思います。